

2019年度 いきいき福祉会 法人事業計画

2019年3月12日役職者会議・3月18日理事会

はじめに

私たちいきいき福祉会は、介護保険制度の激変の中で2018年度法人事業計画を①社会福祉法人の公益的取り組みとしての「介護よろず相談所」の設置、②デイサービスセンターかっちゃんの家（仮称）の修繕工事、③中長期計画の立案に向けての議論開始、④委員会機能の強化や管理運営の強化、⑤私たちらしい地域包括ケアシステムへの取り組みの模索を掲げ取り組んで来ました。以下、具体的に介護活動を振り返り、2019年度法人事業計画を策定します。

1. 2018年度法人事業活動計画の方針は以下5点と、その実践についての報告です。

① 社会福祉法人の公益的な取り組みとして「介護よろず相談所」を無料事業として各事業所に設置します。

実践：まず私たちが取り組もうとしている「介護よろず相談所」が、公益的な取り組みになり得るかどうか含め、議論・検討を行ってきました。その結果を理事会・評議員会でも報告し、2019年2月各事業所で看板設置にまで至りました。高齢者の貧困問題も相談内容の視野に入れ「フードバンク八王子えがお」と、フードドライブ含め連携を開始しました。今後、認知症カフェ「わたぼうし」との連携等、他事業所との連携拡大を目指し、公益的な取り組みに向け基盤強化を図っていきます。

② かっちゃん（仮称）の家の修繕工事は、利用者も職員も「使いやすい事業所」へとリニューアルを目指します。

実践：2018年度3月～5月にかけて修繕工事を実施しました。工事には騒音や荷物の移動等、さまざま苦勞が付きまとうものですが、所長をはじめ職員の覚悟のもと、決して休まず営業を続け修繕工事を完了したことは大変な事でした。寒さを伴う入浴も改善しデイルームに移動した手洗い場等、使いやすくなりリニューアル出来ました。

③ 中長期事業計画の立案に向けて素案作成から出発し議論を開始していきます。

実践：2018年9月度役職者会議で「みんなでつくる中長期計画～私たちの事業はどこをめざしていくのか」についてワールドカフェ方法で議論を行いました。この結果を基に素案に入っているところです。この議論により「地域連携・人権・利用者・相互理解・人づくり・自分の頭で考える」等、役職者の構えが見えてきました。この事を大切に作成作業に入ります。

④ 委員会機能の維持・強化により法人及び事業所の管理運営強化へと発展させていきます。

実践：介護安全委員会はヒヤリハット・事故報告の集計を2018年度も毎月継続し、委員会開催も月1回開催してきました。また教育委員会は委員会メンバーが事業所のコアになれるようコミュニケーションスキルを磨く体験学習を進めてきました。特徴的な取り組みとして、2018年12月に法人初めての「事例検討会」を開催し、5事業所全てがパワーポイントを使って事例報告を行う事が出来ました。二つの委員会機能が大きく前進し、「人づくり・組織づくり」に向けて強化されました。

⑤ 職員と法人を守るため経営を強化・安定を目標に掲げ、誰もが安心して住み続けられるまちづくり（地域包括ケアシステム）に向け、私たちらしい取り組みを模索しながら実践していきます。

実践：介護保険制度そのものに向き合い、改善を求めていく毎年恒例の「介護ウェーブ」を、今年度も旺盛に取り組みました。介護改善の署名活動においては1,200筆を超える大きな活動となりました。また八王子社会保障協議会と連携した「秋の総行動」（市介護保険課との懇談）は、ケアプラン及び訪問介護事業所所長自らが実態を訴えることが出来ました。介護現場におけるハラスメント問題にも触れることが出来ました。こうした懇談会の継続は現場の声を届けること以上に非常に有意義であり、私たちらしい取り組みでもあります。今後も継続し奮闘していきます。

- 2) 職員確保：2月末までの累計 常勤採用：2名、非常勤採用：12人、常勤退職者：1名、非常勤退職者5名
- ・入退職者数：常勤入職者 2名 工藤、松本
 - 退職者 1名 鈴木巧栄
 - 非常勤職員入職 12名 丸子、谷口、佐々木、新堂、今井、渡辺、天引、ギリ、西川、綿引、小園、吉村
 - 退職者 5名 本村、室橋、杉田、綿引、西川
 - 登録ヘルパー入職者2名 林、田上（再就職）
 - 退職者 1名 大地
- ・入職者の応募経路：職員紹介、ハローワーク、ホームページ、共同組織、求人広告
 - ・退職理由：職種転換、年齢的に終了、特養入職、自己都合等が主な理由

3) 職員確保に向けての取組み

ハローワークへの職員募集や年間3回紙面による新聞折り込み求人広告(一部ネット掲載)を実施しました。また2017年12月ホームページ更新により閲覧数が過去閲覧数よりも倍加し、ホームページによる職員応募につながった事は特徴的です。

- 4) 管理運営：毎月1回全事業所管理者会議を継続実施。全事業所役職者会議は2017年度から継続し3回実施。
- 介護安全委員会 月1回開催、教育委員会 月1回開催
 - 第三者評価実施：グループホームこまくさの家、こまくさの家・長房
- 5) 実地調査：ディサービスセンターかっちゃんの家 9月、グループホームこまくさの家・長房 11月
- 6) 八王子市への事故報告：グループホームこまくさの家及び長房における転倒骨折にて計4件を報告。
- 7) 原水爆禁止世界大会への参加：ヘルパーステーションより1名参加。カンパ活動も大奮闘した。
- 8) その他：地域・他団体の介護学習会や懇談会への参加（講師）、共同組織と連携し健康チェックへ参加、居宅支援事業所ケアマネ実習生の受け入れ（特定事業所）、中学生介護体験、八王子社保協主催「何でも相談会」、訪問介護事業所における職業開発訓練校実習生受け入れ等

2. 法人全体の事業活動を振り返って：2018年度法人事業活動総括

2018年度法人事業活動計画を基に、各事業所活動方針を位置づけ、介護活動を実践してきました。1で述べたように、介護よろず相談所の開設や二つの委員会機能の前進等が、法人組織を大きくした事は言うまでもありません。非常に厳しい人員体制の中、職員確保に向けても奮闘してきましたが、常勤・非常勤の枠を超え、事業所内・法人内で支え合う関係で奮闘してきた事も確かです。

今後の活動においては、更なる地域密着の在り方や認知症の「共生」・「予防」の推進が厚生労働省の検討事項として挙げられています。同時に介護の質の向上と加算との関係やICT活用、加えてケアプランの有料化や混合介護等、介護保険制度の改正が更に推し進められていく事が予測されます。今後の事業活動においても、ひとつひとつの事柄に対する構えを持ちながら実践を進めていきます。

3. 全事業所活動実績と経営実績（2018年4月～2019年2月度実績の評価）

【表2】 事業活動計算書(拠点区分間繰入収益・費用を除く) 2018年4月～2月実績

単位:千円

	事業収益			事業費用(除本部費)			当期利益		
	収益額	※予算	予算差	費用額	※予算	予算差	利益額	※予算	予算差
GHこまくさの家・石川	78,139	77,144	994	74,592	75,494	-902	2,021	110	1,911
GHこまくさの家・長房	80,277	77,801	2,476	69,516	72,210	-2,694	5,407	-69	5,476
DSかっちゃんの家	24,950	26,386	-1,436	22,766	24,251	-1,485	1,502	1,326	176
ケアプランセンターいきいき	34,836	35,430	-594	33,396	33,242	154	-216	482	-698
ヘルパーステーションいきいき	71,318	73,162	-1,844	60,183	64,022	-3,839	3,346	1,323	2,023
本部	36	900	-864	16,864	16,738	126	665	1,652	-987
合計	289,556	290,823	-1,268	277,317	285,957	-8,640	12,725	4,824	7,901

サービス活動収益は予算 290,823 千円に対し 289,556 千円。予算差-1,268 千円未達です。

サービス活動費用は予算 285,957 千円に対し 277,317 千円。予算差-8,640 千円下回りました。

当期活動増減差額は予算 4,824 千円に対し 12,725 千円。予算を 7,901 千円超過達成しています。

4. 各事業所における 2018 年度事業計画と総括について：詳細については別紙参照

- ① グループホームこまくさの家：満床維持、職員確保の課題、介護の質の向上
 - ・かつて無いほどの人員不足状態が発生したが、少しずつ職員確保が進み徐々に安心につながった。
 - ・8月から開始された「利用者負担軽減措置」も開始され、入居しやすくなった事を発信していく。
- ② グループホームこまくさの家・長房：職員確保、個別ケアの浸透、医療連携、地域との連携
 - ・医師・看護師に多くの質問が出来るようになり連携が進んだ。
 - ・地域連携では「ピーポ君の家」について長房小学校 PTA と確認し、看板設置に至った。
- ③ デイサービスセンターかっちゃんの家：断らない介護、職員のスキルアップ、徹底した節約
 - ・予算達成月が連続した。
 - ・地域密着となり運営推進会議の開催で地域や包括等との交流が広がった。
- ④ ケアプランセンターいきいきいき：特定事業所加算取得の事業所の在り方、他事業所との連携
 - ・所長、主任とも、主任ケアマネ協力員、八王子介護支援専門員連絡協議会に手上げし連携を強化。
 - ・質の高いケアマネジメント（学習とスキルアップ）
- ⑤ ヘルパーステーションいきいき：複写式報告用紙の活用、ヘルパーの確保問題、総合事業
 - ・複写式報告用紙は昨年度一年間議論の末での運用開始だったこともあり、順調に運用できた。
 - ・新規利用者が生活単体よりも、身体単体と身体・生活の複合型が多かった。

5. 2019 年度法人事業活動計画の方針を以下のように位置づけます。

- ① 公益的な取り組みと位置付けた「介護よろず相談所」を起動させ、連携事業所の拡大を図り、より地域に密着した社会福祉法人を目指します。
- ② 中長期計画の素案作りに向けた 2018 年度を基礎とし、法人中長期計画を確立します。
- ③ 介護安全委員会や教育委員会の機能を発展させつつ継続し、更に学習を進め、介護の質の向上と人づくりを推進します。
- ④ 認知症の「共生」「予防」に向け、地域との連携を更に進めていきます。

2018 年度法人事業計画のもと各事業所も事業所方針に向かって大きく前進した年度でした。働き方改革による制度改定等、迫られている課題も多く 2019 年度新たな転換期を迎えています。私たちいきいき福祉会は社会福祉法人格取得から丸 5 年となり創立 6 年目を迎えます。これまでの実践に確信を持ち、支え合い・学び合う職員関係を柱に「私たちらしい」介護活動を継続すべく、介護活動を継続していきます。2019 年度予算編成は大変厳しい状況になりますが、互いに叱咤激励しながら奮闘していきます。

以上